

# 城ヶ島と荒崎海岸

2024.04

久家隆男

昨年、山久会で城ヶ島と荒崎海岸のウォーキングの計画があったが、城ヶ島は体調不良で参加できず、荒崎海岸は猛暑で中止になった。共に見所が多い海岸なので、この度両方を歩いてみた。

## 城ヶ島

3月では海辺を歩く観光客は少なく、終点の城ヶ島バス停で下りた乗客は私だけだ。山久会のウォーキングとは逆に半時計方向に歩く。

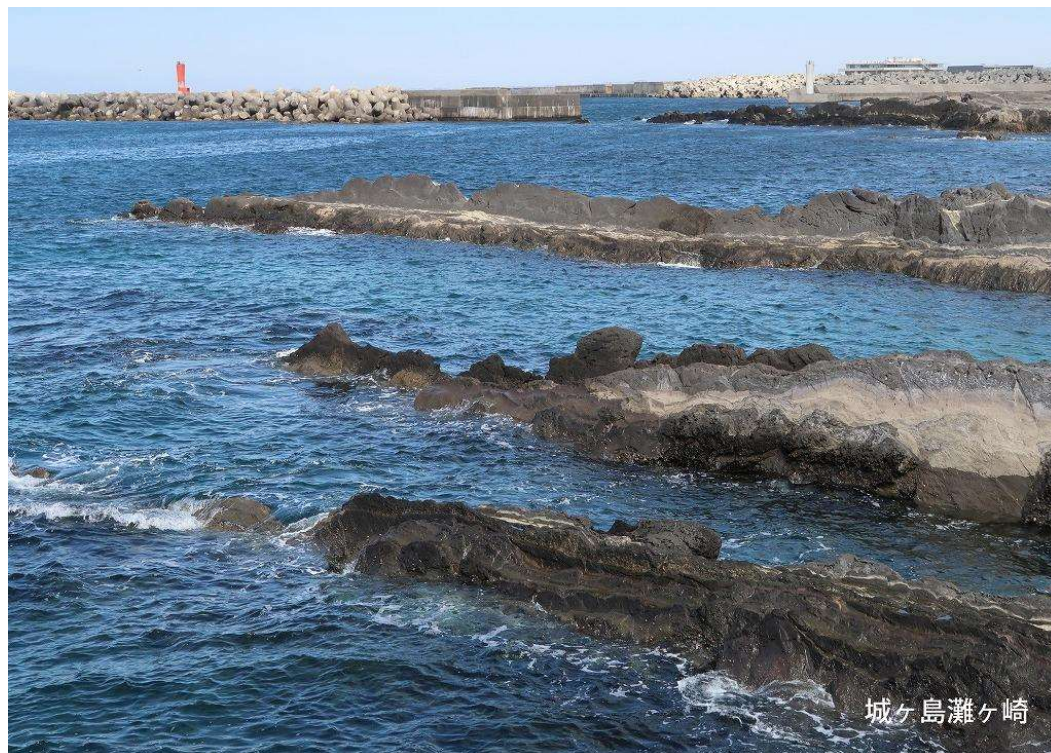
先ず、灘ヶ崎の付け根まで行き、城ヶ島灯台を左上に見ながら海岸沿いの道を南下する。強風の予報が出ていて三崎口の駅前では紙が舞い空き缶が転がっていて先が危ぶまれたが、磯辺まで来ると意外に風は当たらない。



城ヶ島 灘ヶ崎



凹凸になっている細長い岩がいくつも並んでいて、突端が大海原に狙いを定めたような光景で迫力がある。岩は盛り上がった黒い部分と凹んだ白い部分が交互にあり、黒い部分は凝灰岩で白い部分は砂岩のようだ。





南端の長津呂の磯を巡り、露岩と砂地についた踏み跡を辿ってゆく。

途中で興味深い海食洞が目についた。洞の壁に多数の孔があり、何によるものだろうと思った。

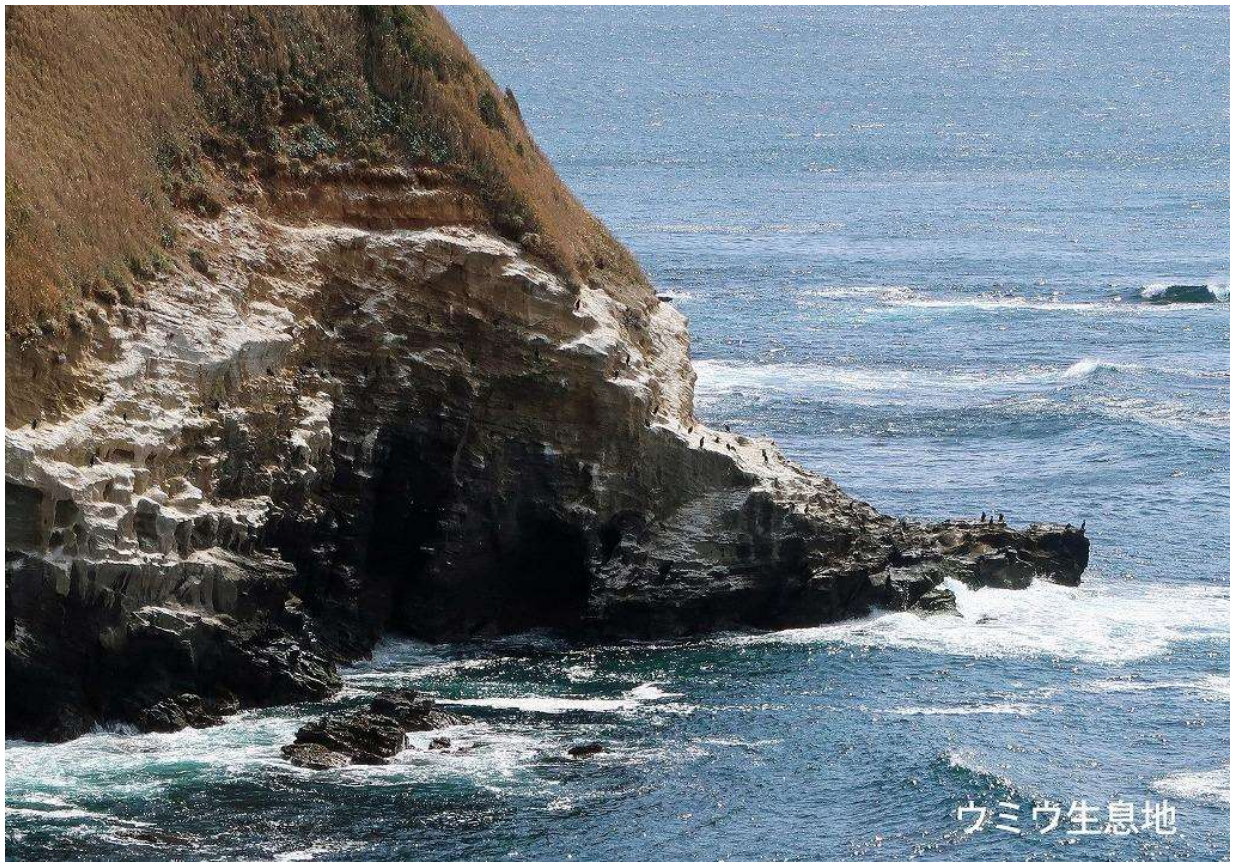
帰宅して地質の本やネットで調べてみると、穿孔貝という岩に穴を空ける貝がいるようだ。

馬の背洞門に着くと観光客が全くいないので、自由に撮影できた。自然の造形美を感じる。凝灰質砂礫岩という柔らかい岩質で、洞門は高さ 8m、幅 6m、奥行 2mとのこと。





石段を登って遊歩道に上がり、東に歩いてゆくとウミウ展望台に着く。岩壁が糞で白くなっている。目を凝らすと多数の海鵜が見えた。



更に進むと広い駐車所に出て、なおも東に進むと安房ヶ崎灯台に着く。観光客は数人しかいない。灯台の周囲の広場は風が吹き抜けるので、北側の灌木が風を遮ってくれるベンチに座り昼食を取る。ただ、上空に鳶が4匹も舞っていて食べ物を狙っているので、絶えず頭上に注意を払わなければならなかった。

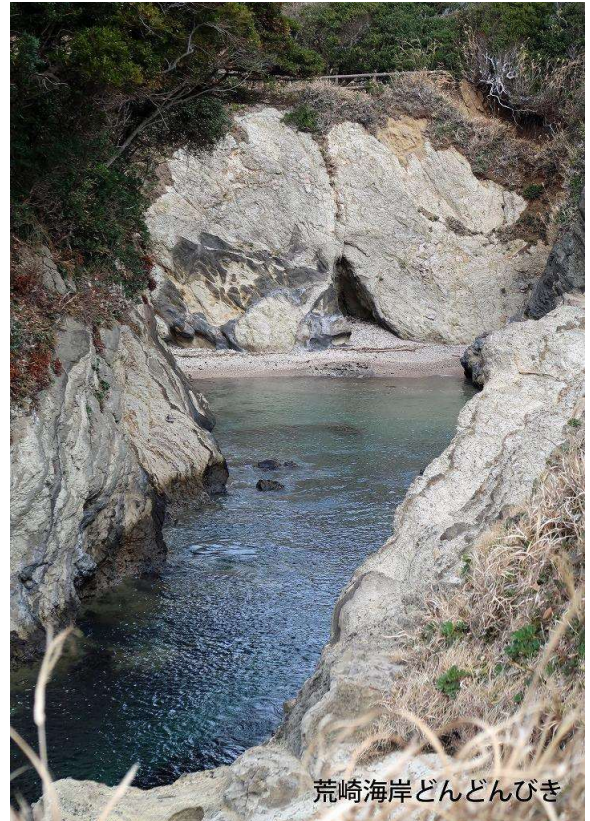




## 荒崎海岸

荒崎バス停から多数の船を係留している漁港に沿って進む。さほど歩かずに「どんどんびき」という名の入り江に着く。この入り江に波が打ち寄せた後、どんどん引いてゆく様子からこの名が付いたとのこと。少し下ると展望台のようになっていて海を見渡すことができる。眼下にゴジラの足の指の様に節があって先端が尖った岩が何本も海中に突き出ていた。

この先は左右に柵があり、コンクリート製の栈橋の様な遊歩道を歩く。美しい縞模様の岩が次々と現われる。









十文字洞という大きな海食洞があり、壁の縞模様が美しい。残念ながら遊歩道から下りて中を覗くことはできない。



十文字洞

前方に弁天島が見え、非常に美しい光景だ。



弁天島

ここの地層は、白っぽい凝灰質シルト岩と黒っぽいスコリア質凝灰岩が繰り返し重なった互層であり、凝灰質シルト岩に比べてスコリア質凝灰岩のほうが硬いので、波で侵食を受けた岩肌は黒っぽいスコリア質凝灰岩が突出して縞模様をより明瞭にしているとのこと。

注：シルトとは粒子が  $1/16 \sim 1/256 \text{mm}$  でやや粗い泥岩



スコリアとは火山から噴出した火山礫（火山灰より大きく 2~64mm）で、多数の孔が空いている黒色の石。白色なら軽石という。

褶曲した縞模様に見とれ、何コマも撮影し、時間が経つのを忘れる。

このような絶景の地で観光客が全くいないのは未だ肌寒い3月という時期のせいだろう。

「山と溪谷」や「大人の遠足」に載っているガイドには、この先も歩けるように書いてあるが、遊歩道があるのはここまでだ。弁天島の陸側の斜面に道があったようだが崩壊しているように見える。また、いくつかの入り江を横切らなくてはならないが、飛び越せるような幅ではない。干潮時なら歩けるのかも知れない。この先の海岸に陸地から下る道があるか否かは確認していない。





ここで引き返すが、海上の岩礁に海鵜がいることに気づいた。



荒崎海岸の海鵜